

**地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	9
代表校名 (連携校名)	名古屋市立大学（岐阜薬科大学、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学 計3大学）		
事業名	東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師 PBL 学習プログラムの構築		
事業責任者	薬学研究科長 中川 秀彦		
事業の概要			
<p>薬学生が薬剤師偏在の課題を深く理解し、地域医療参画への意識を高め、偏在等への対応について解決策を見出す以下の学習プログラムを実施する。</p> <p>1) 東海地区連携による薬剤師不足地域でのアドバンスト実習 東海地区の薬系大学が協力して薬剤師が不足している地域で連携大学の研修の実績のある地域での薬学生のアドバンスト実習を実施して、医療施設、行政等と連携して地域医療の魅力とその地区での薬剤師の必要性を学ぶ。</p> <p>2) 実習生による薬学部 PBL 授業ならびに各県薬剤師会研修の実施 アドバンスト実習に参加した薬学生が、その地域の課題等を提示する映像コンテンツ教材を制作する。その教材を活用して、実習生が主導して薬学部の2、3年生に PBL を行う。この PBL に実習地域関係者もオンラインで参加し施策に活かしてもらおうとともに、東海地区の薬剤師会、病院薬剤師会でも実習生と映像コンテンツ教材を活用して薬剤師偏在解消を目的とした薬剤師研修を実施する。</p>			
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○東海地区と連携したアドバンスト実習は、僻地または薬学部のない地域との連携した実習である点で評価できる。</p> <p>○地域医療人材育成特別コースは、低学年から高学年、卒後教育までシームレスなカリキュラムになっている点、本プログラムの趣旨に沿った人材養成プログラムである点で評価できる。</p> <p>○臨床実習を終えた学部生が僻地3カ所（静岡県、岐阜県、三重県）および沖縄県（薬学部なし）で5日間実習すると記載があり、本事業の趣旨に合致した取り組みであり評価できる。</p> <p>○コンソーシアム内に組織を設置していること、東海地区8大学で費用を負担することが明記していることから、本プログラムの継続性が高い点で評価できる。</p> <p>○4大学ともに自己評価委員会または質保障委員会が設置されており、PDCA サイクルが稼働している点、3大学は評価機構の評価基準に適合していると認定されている点で評価できる。</p> <p>●他のカリキュラムとの兼ね合いや予算の問題もあるが、5日間は、地域の課題を主体的に学ぶための「長期に滞在」といえるかどうかは疑問である。</p> <p>●「地域医療人材育成特別コース」において、薬学部、薬剤師会など薬剤師とは連携しているが、行政や医師会などを含めた組織と連携していないことから、他の組織とも連携することが望ましい。</p> <p>●多職種との活動との連携が企画されているが、実現手段の説明が乏しい。行政や地域住民を通して地域の課題を見出すことも重要であるが、そのような教育プログラムの説明がない。</p> <p>●データの収集・分析を担当する教学 IR 部門の説明がない。また、卒業生の社会貢献に関する情報収集・評価の方法に関する記述がない。</p>			